

日本建築学会関東支部 住宅問題専門研究委員会 連続シンポジウム
これからの東京の住宅地を考える 第2回

テーマ：環境共生とこれからの住宅地

我が国では、環境に配慮した住まいについて、CASBEE、住宅性能評価、自律循環型住宅などの物差しが近年、研究・開発され、単体としての住まいの質の向上はみられるが、敷地周辺、近隣の環境などの影響が大きいことは否めない。

一方で、集合住宅や街区の開発、スマートシティなど、面的に環境技術を整備することで大きく、複合的な効果を得られることが注目されている。更に昨年の震災以降、地域におけるエネルギーの自立や地域のコミュニティといった課題も重要視されている。

東京都では「2020年の東京」計画に基づき、都有地を活用し、長寿命で環境への影響にも配慮したモデル住宅を供給する「長寿命環境配慮住宅モデル事業」を昨年から実施している。こうした住宅地としての面的な開発や取り組みの事例に焦点を当て、その事例を紹介したい。

主催 : 日本建築学会関東支部 住宅問題専門研究委員会

日時 : 2013年2月22日(金) 18:30 ~ 20:30

会場 : 建築会館会議室 (東京都港区芝 5-26-20)

JR 田町駅 徒歩 5分 <http://www.aij.or.jp/jpn/guide/map.htm>

パネリスト : 迎川利夫 (相羽建設)

モデレーター : 中村美和子 (住宅問題専門研究委員 / NPO エコロジー・アーキスケープ)

コメンテーター : 高山 登 (住宅問題専門研究委員 / 株ポラス暮らし科学研究所)

定員 : 30名

参加費 : 会員 500円 会員外 1,000円

申込み : 日本建築学会関東支部 HP <https://www.aij.or.jp/index/?se=sho&id=382>

問合せ : 日本建築学会関東支部事務局 (03-3456-2050)